

とくしまサイクルツーリズム調査事業（速報）

1. 調査概要

「ワールドマスターズゲームズ2027関西」、「大鳴門橋自転車道の開通」などのビッグイベントの開催を控える中、本県が国内外からサイクリストを迎え、県内各地へ経済効果を生み出すための基礎調査として、「サイクリング観光客のマーケティング調査」と「県内の地域資源調査」を実施。

① サイクリング観光客のマーケティング調査

WEBアンケート調査

本県でサイクリング経験があるサイクリストに対してインタビュー調査を実施

異なる立場で活躍する3名の事業者に対しインタビューを実施

② 県内の地域資源調査及び走行調査（自転車王国とくしま公式コース周辺）

2. 各調査結果抜粋

① サイクリング観光客のマーケティング調査

傾向を比較するため、

- 徳島県からの距離別：近距離、中距離、長距離
- レベル別：初級層、中級層、上級層 でクロス集計をして分析

距離別では以下の傾向

- ・ 近：観光地の立ち寄り少なく、消費も付随的で日常運動としている人が多い
- ・ 中：観光地の立ち寄りは選択肢が多く、消費も高く計画的な観光行動が多い
- ・ 長：行動目的が明確な人が多く、立ち寄りは終盤に集中し消費も高額である

レベル別

- ・ 初級層：サイクリングそのものよりも「観光」に重きを置いた行動パターン
- ・ 中級層：整備されたサイクリングコースを走ることと観光を楽しむパターン
- ・ 上級層：峠道や長距離ルートを走破するアスリートに近い行動パターン

② サイクリストインタビュー

- ・ ミニベロ：自転車での非日常体験を重視。公共交通機関に自転車をそのまま持ち込めることを望む。
- ・ 初心者：仲間との繋がりや健康、景色、グルメを楽しむゆるやかなスタイル。安心・安全に車を置ける拠点（パーク＆ライド）の整備と、わかりやすいポータルサイトの構築を求めている。
- ・ 中級者：ロングライドによる達成感や充実感、絶景やカフェ巡りを楽しんでいる。
- ・ 上級者：勝利へのこだわり、自己の限界突破、レース現場の特有の空気を味わうことを重視し、非常にストイックなトレーニングを日常としている。徳島での本格的なロードレースの開催やサイクルトレインの導入を要望。

③ 事業者インタビュー

- ・ 交通安全ドライバーのマナー：車が自転車を追い越す際の恐怖感や運転手の配慮
路肩の未整備：幹線道路の路肩が狭く、走行が危険な箇所が多い
- ・ 情報発信・インフラの「多言語対応」不足：案内表示の欠如、目的地への移動や
自転車の組み立て場所が分かりにくい、徳島の魅力を伝えるポータルサイト充実
- ・ 事業者へのハード面・運営支援：Eバイクや機材を揃えるための補助の要請、メ
ンテナンス拠点の確保などの運行を支えるサポート支援。

④ 県内の地域資源調査

各コースともスタートフィニッシュの他エイドとして飲食店、トイレなども整備さ
れ、景色の良い場所もあるものの

- 道路の陥没
- 危険なグレーチング
- サイクルラックの破損や未整備
- 自然にある落ち葉や草木の伸び
などが指摘された。

3. まとめ

徳島県のサイクルツーリズムは、距離別・レベル別で行動特性や消費傾向に明確な違
いが見られた。

中距離層および中上級層は観光消費額が高く、経済効果の中核層である。

一方で、交通安全面（車との距離・路肩未整備）や多言語対応を含む情報発信不足が
共通課題として挙げられた。

徳島の強みは峠やローカルな生活風景といった独自資源にあり、環境そのものの魅力
は高く評価されている。

今後は安全対策と情報整備を優先することが誘客のカギといえる。

4. 調査分析を踏まえた戦略（ポイント）

これまでの調査を踏まえて、徳島県がやるべきことを優先順位で挙げる。

- 安全対策の強化
- 情報整備、多言語対応での情報発信
- ターゲット別戦略の明確化
- 大鳴門峡を核とした広域戦略
- 事業者支援体制の構築
- 徳島ブランドの再整備